

令和5年度 第2回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和5年9月1日（金）午前10時00分から午前11時50分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 17名

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 田中 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 西出 素子

碧南市小中学校校長会 杉浦 道文

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 永坂 昌男

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

サンフレア 高松 有美

ふれあい支援センター 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 齊木 鉄馬

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長 大野 孝男

地域福祉課地域福祉係主査 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司
地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳
地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子
地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美
地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

1 人

5 議題

- (1) へきなん障害者ハーモニープランの計画骨子案について
- (2) 日中サービス支援型グループホーム開設に係る報告及び評価について
- (3) その他

6 議事の要旨

- (1) あいさつ（三浦職務代理）
- (2) 議題

ア ヘきなん障害者ハーモニープランの計画骨子案について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

委員：基礎資料作成時のヒアリング対象の事業者や団体はどのようにして決められているのか。碧南市で活動している事業所で対象となっていない事業所はないか。また、日中一時支援事業において、実績値はコロナの影響で減っているのではないか。

事務局：ヒアリング対象の選定については、当市で把握している事業所と団体に案内している。漏れが生じてしまっている場合は、今後追加したい。また、実績値にコロナの影響は出ている。見込値においては、反映した数値を検討したい。

委員：子ども・子育て支援事業において見込量が実績値を上回っているということは、希望者はすべて支援を受けているのか。また、幼保職員の処遇改善を行っているのか。

事務局：表記の数値は、加配対象児の児童数となる。加配見込みに対し実績者数は少ないと言える。幼保職員については、碧南市においても確保に苦慮している。事務改善に取り組んでいる。処遇改善に務めたい。

委員：国の成果指標における、地域社会への参加・包容の推進について具体策はあるか。

事務局：国の想定した事業は児童発達支援センターの活用し、支援の充実を図ることを示している。碧南市においても児童発達センターの研究を進めていきたい。

委員：国の成果指標において、令和８年度までの目標が書かれている。具体的なビジョンは。

事務局：現在、具体的なビジョンはない。令和８年度に向けて検討していきたい。

委員：声の広報をどのように周知しているのか。

事務局：手帳の交付を行っている際に関係のある事業を案内している。また、広報係において必要な方に必要な情報が届く形で案内をしている。

委員：精神障害者の地域移行の利用者数が少ない状態である。相談支援事業所の職員から見て、地域移行が難しい印象はあるか。

委員：相談支援員から見て、対象の方があまりいないという印象である。

イ 日中サービス支援型グループホーム開設に係る報告及び評価について

ソーシャルインクルー株式会社の職員より、会議資料に基づき説明があり、その後質疑を行った。質疑の後、日中サービス支援型グループホーム開設に係る報告及び評価を行った。

<主な意見・質疑>

委員：愛知県にどれくらいの事業所を展開しているのか。

事業所：愛知で１１事業所の展開をしている。内訳は、豊橋２件、豊川２件、岡崎１件、名古屋２件、尾張旭１件、北名古屋１件、一宮２件である。

委員：施設運営の理念は。

事業所：各市町村での生じているグループホームや日中サービス支援型サービスのニーズに応えたいと考えている。

委員：どのようなサポートを行うのか。

事業所：利用者の特性、心身の状況に合わせて、自立支援を促すサポートを行う。

委員：研修教育体制はどのような内容を行うのか。

事業所：オープン前の研修を充実していく。事前研修を十分行い開所したい。

7 まとめ

学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）

今回の気づきを４つ述べる。

まず１つ目は、ハーモニープランについて。誰もが人生の中で変化を経験する可能性がある。プランの策定を通して、誰もが障害について考えるきっかけとしてほしい。

２つ目は、今後の変化について。障害者総合支援法の改正が令和６年度からある。

虐待に関する事項について目まぐるしく社会は動いている。アンテナを高く設定し、変化のキャッチに努めたい。

3つ目は、ニーズについて。実績値では読み取れないニーズがある。待つだけではなく、ニーズを引き出せるような努力が必要であると感じる。

最後に、研修について。日常的に直属の上司、指導的立場の人からどのような指導を受けるのか。指導によって、やってはいけないことの基準値が下がることがある。無自覚のこわさがある。研修により基準の明確化、自覚化が必要である。

8 その他

事務局が会議資料に基づき、次回の会議予定等を説明した。

以上